

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 212

2010年

1~2月号

## 2010年の新年にあたって

会長 間野吉幸

明けましておめでとうございます。会員の皆様には清々しい新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。我孫子野鳥を守る会は今年の3月で丸38年を迎えます。これもひとえに会員の皆様の活動の賜物と思います。

昨年の会の行事を振り返って見ますと、探鳥会は一昨年の天候不順が嘘のようで、定例及び遠出探鳥会とも天候に恵まれ素晴らしい探鳥が出来ました。探鳥会の醍醐味は野鳥観察を通じ、参加者のコミュニケーションと自然環境を見て感じることにあるのではないかと思います。

昨年の10月の末に小学校の探鳥会を手伝う機会を会員の皆様と得ました。鳥のことは全く興味が無かった子供たちが、「鳥を探している内に、鳥が大好きになった」と言っていました。カワセミをはじめ色々な鳥に出会った感動が言わしめたのかも知れません。また別な子供たちは、「手賀沼ってすごいなと思った。このことを社会のまとめでもやり、もっと手賀沼のことを知りたいです」、「海でもないのにカモメが見られた。(中略)手賀沼博士になりたいです」など野鳥の観察を通じ、自然への関心が高まった感想が述べられ、私は子供たちのこの気づきに嬉しくなりました。

野鳥は野生の命であり、生活の場は自然界にあります。彼らが何を食べ、何処で生活しているかを知ることも探鳥の楽しみであります。昨年のJBFでは、数人のメンバーが私達の住んでいる地の身近な野鳥とその食べ物に焦点を当て、その成果の一部(食物連鎖と身近な野鳥の食べ物情報及びその写真紹介、74種の草木の実などの実物)を展示発表しました。このような自然を知り紹介する活動をも強化して行きたいと考えています。

私達の先輩から積み上げられた37年間の鳥便りと、33年間の手賀沼の水鳥のデータベースは、非常に貴重で大切な財産であります。これらのデータを分析しますと、手賀沼とその周辺の野鳥出現の変化がつぶさに見て取れます。つまり野鳥観察記録の変化を通して、環境の変化を知ることが出来る訳です。これらの情報と野鳥を通して、地元の自然環境を広く一般市民の方に解り易く伝えて行きたいと思えます。

「人とひととの繋がり」の環を拡げ、野鳥(自然)に親しみ、野鳥(自然)を知り、野鳥(自然)を守る活動を今年も続けましょう。このサイクルの環を拡げて行きましょう。

# 行 事 案 内

## 1 月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 1 月 10 日 ( 日 ) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前 9 時  
案 内 2010 年最初の定例探鳥会です。冬鳥のピークとなり、手賀沼は水鳥で賑わう季節です。カモ類の識別に挑戦してみましょう。上空にはハヤブサ、チュウヒなどの猛禽類、葦原にはジョウビタキ、ベニマシコなどの小鳥も見られると思います。沢山の鳥たちと出会い、今年の鳥運、鳥果を願いましょう。

解 散 正午  
担 当 桑森、松田、佐々木、小林(寿)、野口(紀)、北原

訪れます。小見川ではチュウヒやノスリなどタカの飛翔、神之池・波崎漁港周辺ではカモ・カモメ類など、変化に富んだ探鳥会です。昨年は神之池ではミコアイサの群れが、波崎ではミコビシギ、ミヤコドリ、シノリガモなど 45 種が観察されています。新年早々ですが、多くの鳥たちと出会い、2010 年の探鳥をスタートしましょう。

交 通 自家用車分乗です。分乗者は 1 人 1,500 円を運転者にお渡しください。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。

持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)

申 込 桑森亮まで  
〒270 - 1143  
我孫子市天王台 2 - 15 - 17

担 当 松田、田丸、桑森

## 2 月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 2 月 14 日 ( 日 ) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前 9 時  
案 内 冬鳥の最盛期です。カモ達の冬羽も美しく、人気のミコアイサの姿も期待できるでしょう。葦原やまわりの農耕地の冬鳥にも気を配り、ワシ・タカにも期待しましょう。防寒対策はしっかりと。

解 散 正午  
担 当 松田、佐々木、小林(寿)、野口(紀)、北原、桑森

## 銚子カモメ探鳥会

期 日 1 月 17 日 ( 日 ) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口 午前 7 時 30 分  
案 内 当地はカモメを観察するには日本有数の探鳥地です。識別が難しいカモメ達をじっくり観察しましょう。珍鳥の出現があるかもしれません皆様の参加をお待ちしています

交 通 自家用車分乗です。分乗者は 1 人 1,500 円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡下さい。

持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中で購入可)  
厳しい寒さが予想されます。防寒対策をお忘れなく

申 込 諏訪哲夫まで  
Tel : 04 - 7188 - 7137

## 波 崎 探 鳥 会

期 日 1 月 3 日 ( 日 ) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口 午前 8 時  
案 内 毎年恒例の新年探鳥会で、小見川の葦原、神栖市の神之池、波崎漁港を

担 当 諏訪、大久保、染谷

### 井頭公園探鳥会

期 日 2月7日(日) 雨天中止  
 集 合 我孫子駅北口 午前8時  
 案 内 水辺の鳥と里山の鳥(ミコアイサ、マガン、ルリビタキ、ベニマシコ等) 昨年48種が観察されています。また、A班、B班に分かれてのバードソンも楽しみの一つです。

交 通 今井観光バス 37席  
 持 物 観察用具、防寒具、昼食(途中購入可)  
 費 用 3,000円(バス代等)  
 申 込 猪爪敏夫まで 1月31日締切  
 Tel/Fax: 04-7186-5075  
 担 当 猪爪、小林(寿)

等を観察します。  
 交 通 今井観光中型バス  
 宿 舎 ねむの木ペンション  
 北杜市高根町清里 3545  
 Tel: 0551-48-3395

定 員 20名  
 費 用 17,000~20,000円程度  
 (2日間の昼食は各自負担)  
 持 物 観察用具、雨具、防寒具(戸外は厳冬ですので、十分な防寒対策を)、雪の入らない靴、洗面用具・タオル(必ず持参下さい)、パジャマ、常備薬等

申 込 鈴木静治まで(旅行傷害保険に年齢が必要ですので、年齢の連絡をお願いします)  
 Tel: 04-7169-4191

担 当 田中、鈴木

### 清里・野辺山探鳥会

期 日 2月20日(土)、21日(日)  
 集 合 我孫子駅北口 午前8時  
 案 内 雪の清里ではニュウナイスズメ、アトリ、シメ、エナガ、カヤクグリ、イカル、ウソ、アオゲラ、アカゲラ等を、また、標高1300-1400m雪の野辺山高原ではベニマシコ、オオマシコ、ハギマシコ、フクロウ等が期待できます。帰途、佐久の東電第一調整池でカワアイサ、ミコアイサ

### 1月幹事会案内

日 時 1月10日(日) 13:30~16:00  
 場 所 アビスタ 2F 第3学習室  
 議 題  
 H21年上期行事予定  
 会報213号記載記事について  
 第3四半期会計報告  
 報告事項(JBF実行委員会反省等)  
 その他(議題提出する場合は事務局に連絡ください)

### 市民手賀沼探鳥会

期 日 1月31日(日) 小雨実施、荒天中止  
 集 合 手賀沼親水広場 午前9時  
 解 散 正午  
 案 内 我孫子市、我孫子市環境レンジャーと当会共催の探鳥会です。一般市民と一緒に手賀沼遊歩道を歩いての探鳥会で、大勢の市民の方が参加されます。参加された一般市民の方からは、野鳥観察の楽しみが体験でき大変良かったとの言葉を頂いております。会員の皆様の沢山のサポートが必要となります。多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。

担 当 染谷、佐々木、松本、間野

## 手賀沼と冬鳥、舟とウォーキングによるツアー

日時 1月30日(土) 9:00~13:00  
 集合 手賀沼親水広場 水の館前  
 場所 手賀沼及びその周辺  
 内容 利根川舟運・地域づくり協議会の主催による手賀沼及びそこに暮らす鳥類などを陸地側・沼側から観察し手賀沼の良さをアピールするツアーのお手伝いです。我孫子市公園緑地課からの依頼です。会員のお手伝いをお願いします。  
 参加者 我孫子市、取手市、河内町の市民 70~80人  
 行程 手賀沼親水広場(9:00) 遊歩道から野鳥観察 手賀沼フィッシングセンター(11:00) 船上観察(12:00) 鳥博見学 手賀沼親水広場 解散(13:00予定)

## 行事報告

### 10月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2009.10.11 9:00~12:00  
 晴、弱~中風、気温 23

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ミサゴ、チョウゲンボウ、オオバン、アオアシサギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 31 種

<探鳥班> 染谷迪夫、諏訪哲夫、肥後邦彦、榎本右、北原建郎、田中悟、山内雅量、栗田励、浅井久、松田幸保、高橋長久、岩田孝之、岩田マキエ、中野久夫、六角昭男、桑森亮、染谷良子、武藤康之、松下勝子、池田日出男、田丸喜昭、西城猛、石渡成紀、田中恒雄、古出洋子、古出夏紀、松本勝英、松本葉子、川村美智子、川村美恵子、西嶋昭生、西嶋みどり、宮下三禮、天野正臣、天野睦子、佐藤弘美、類地佑子、常盤孝義、木村稔、西昭子、野口紀子、山口キイ(担当) 佐々木隆

参加者 43 名

<カウント班> 木村稔、北原建郎、田中功、染谷迪夫

調査日時 2009.10.13 8:00~12:00

晴れ、気温 17 ~ 21

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	12	7	19
カウ	40	111	151
ゴイサギ	5	0	5
ダイサギ	3	18	21
チュウサギ	0	5	5
コサギ	14	10	24
アオサギ	9	2	11
コブハクチョウ	7	6	13
マガモ	3	0	3
カルガモ	263	35	298
コガモ	21	0	21
ヒドリカモ	1	0	1
オオバン	57	56	113
ミサゴ	1	0	1
クイ	1	0	1
オオバン	6	5	11
ユリカモメ	5	5	10
セグロカモメ	0	3	3
合計	448	263	711

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木  
静治

調査日時 2009.10.11 9:30~11:50

晴れ、弱風、気温 23

全般：調査範囲では冬鳥、特にカモ類が少  
なかった。カケスの飛翔、ユリカモメ、  
アジサシが観察された。

水田：刈り取った稲の二番穂の水田でチュウ  
サギが採餌。

ピオトーブ：「カヤネズミの調査」実施中。体  
験水田は終了。

通行人：暑くもなく寒くもない絶好の日和の  
ため散歩・ウォーキング・自転車の人  
多数。

晴れ、気温 13 ~ 20

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	17	20	37
ハジロカイツブリ	7	7	14
カンムリカイツブリ	13	10	23
カウ	21	112	133
ゴイサギ	7	0	7
ダイサギ	5	3	8
コサギ	12	10	22
アオサギ	1	4	5
コバクチョウ	16	14	30
マガモ	0	2	2
カルガモ	239	1	240
コガモ	18	0	18
オカヨシガモ	34	0	34
ヒドリガモ	0	15	15
オカガモ	18	32	50
バン	0	1	1
オバン	23	19	42
ユリカモメ	13	54	67
セグロカモメ	1	2	3
合計	445	306	751

## 11月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2009.11.15 9:00~12:00

晴れ、風弱、気温 21

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、  
カンムリカイツブリ、カウ、ゴイサギ、ダ  
イサギ、コサギ、アオサギ、コバクチョウ、  
マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、  
ヒドリガモ、オナガガモ、スズガモ、ミサゴ、  
トビ、ハイロチュウヒ、ハヤブサ、チョウ  
ゲンボウ、キジ、クイナ、バン、オオバン、  
タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバ  
ト、カワセミ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モ  
ズ、メジロ、アオジ、オオジュリン、カワラ  
ヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、  
ハシブトガラス 計 41 種 番外：カワラバ  
ト、コジュケイ

<探鳥班>諏訪哲夫、武藤康之、肥後邦彦、  
類地佑子、松本葉子、川村美恵子、和田朋之、  
山住良子、染谷良子、久保田高、久保田美津  
江、大矢篤、河内悠太郎、榎本右、間野吉幸、  
梶眞壽、浅井久、田中悟、西昭子、栗田励、  
松本勝英、古出洋子、桑森亮、松田幸保、田  
丸喜昭、田丸メリールイス、小玉文夫(担当)  
小林寿美子、野口紀子 参加者 29 名

<カウント班>北原建郎、佐々木隆、田中功、  
染谷迪夫

調査日時 2009.11.15 9:20~11:30

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、川田光男、谷山  
晴男、鈴木静治

調査日時 2009.11.15 9:30~11:30

快晴、無~弱風、23~26

全般：タカを含め多種の野鳥を観察した。北  
側斜面林でタカとカラスの争い。

水田：刈り取った乾田に稲の二番穂。

ピオトーブ：カヤネズミの調査、沈水植物の生  
育実験、実施中。

通行人：天気が良いので散歩・ウォーキン  
グ・ランニング・自転車の人が多数。

---

## 伊良湖探鳥会

10月30日,31日

---

野口隆也

伊良湖岬の探鳥会は雨の合間を縫って見事に好天に恵まれた。現地に着く直前まで雨が降っていたが、伊良湖岬の恋路が浜駐車場に着いた時には風は強いものの絶好の観察日和となった。

岬巡り探鳥グループと駐車場グループに分かれたが、私は本命のタカ見のために駐車場に残った。雨上がり後の強風のためタカ数は少ないが、出現回数が多く、しかも低く飛んでくれたのでそれなりの探鳥を楽しめた。サシバ、ハチクマ、ノスリ、ミサゴなどが観察できた。海側ではオオミズナギドリの大群も現れた。オオタカも木村さんのお陰でじっくりと観察できた。

16 時頃には翌日の「タカ柱」を期待して宿舎(休暇村)に引き上げた。バスを降りた瞬間、チョウゲンボウが皆を出迎えてくれた。夜の食事も良く、二次会も大いに盛り上がった。

翌朝早く(6時)から休暇村周辺の探鳥で、サメビタキ、エゾビタキ、ノビタキなどが観察できた。朝食後 8 時半に宿舎を出発、期待に胸を膨らませて恋路が浜に向かった。天高く風も弱く「タカ柱」を期待したが、天候が良すぎて、はるか上空でのタカの渡りとなってしまった。(現地の会の調査では 1,000 羽を超えたとのこと・・・) 駐車場での観察を早々に諦め、灯台のほうに移動した。まずイソヒヨドリが出迎えてくれ、珍しいキセキレイの渡り? も見れた。圧巻はなんといってもヒヨドリたちの決死の渡りだった。何度も海に向かって試行を繰り返した後、その渡りが始まる。100 から 500 羽くらいの一団が次から次へと海に向かって帯状になってダイビングし、海面すれすれでひとつの塊になって渡りを開始する。タカの一見優雅な渡りと違って、思わず涙が出てくる「種の自然淘汰」の渡りである。(おそらく何羽かのヒヨドリは落鳥していくのだろう)

壮大な「タカ柱」は見られなかったものの、木村さん、六角さんの幹事の願いが通じて天候にも恵まれ、(白樺峠の時の見下ろすパノ

ラマのタカ見とは趣の違った 潮騒の中で小鳥たちの渡りも観察できた伊良湖岬のタカ見は私にとっては十分満足できる探鳥会であった。

【幹事報告】

伊良湖岬にタカの渡りを見る一泊旅行で秋の風物を満喫してきました。秋の渡りをするワシタカ類、オオミズナギドリ、アジサシ、ヒヨドリ、ヒタキ類などの鳥のほか、ハマコウ、ハマアザミ、ハマカンゾウの花、ハマアザミに止まるイチモンジセセリ、アサギマダラも渡っていきました。キリギリス、スズムシ、エンマコオロギ、クチキコオロギなど虫の声を沢山聞きました。そして夜は中秋の名月。

<参加者> 宮下三禮、古賀道子、古出洋子、市村偕子、野口隆也、浅野利行、松田幸保、中野久夫、諏訪哲夫、古賀嗣朗、嶋川堯、松本勝英、井上正、桑森亮 (担当幹事) 木村稔、六角昭男 参加者 16 名

<認めた鳥> カイツブリ、オオミズナギドリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、チュウヒ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、イソシギ、タシギ、セグロカモメ、ウミネコ、アジサシ、キジバト、アマツバメ、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、イソヒヨドリ、ウグイス、サメビタキ、エゾビタキ、コサメビタキ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 合計 53 種

---

## 東庄県民の森・江戸崎探鳥会

11月29日

---

和田朋之

今年 9 月に入会し、今回初めて遠出に参加させて頂きました。今春から鳥見を始めたばかりの初心者なもので、会員の皆さんのちょっとしたご発言・ご助言がたいへん勉強になっています。この場を借りて改めて御礼申

し上げます。

朝 8 時の我孫子駅北口集合・出発後、予定通り 10 時に東庄県民の森に到着。入り口でカラ類やアオジの歓迎の声に迎えられ、水辺の鳥を目指して「夏目の堰」に直行したところ、沢山のカモ類に混じって、コハクチョウやミコアイサを初めて見ることができました。近くに立っていた鳥紹介の看板（平成 16 年）にも載っていましたので、毎年渡って来ているようです。

池の周りでは、冬の鳥を皆さんに見付けて頂き助かりました。望遠鏡を覗かせてもらったところ、ジョウビタキの雌と目と目が合っただけでゾクッとしました。先方もちょっとはにかんだように見えたのですが。

昼食後に江戸崎・稲波干拓地に移動。「江戸崎雁の郷友の会」の観察舎にご挨拶したあと、小野川の堤防からオオヒシクイをじっくり眺めました。友の会のホームページ（<http://www.geocities.jp/wqthx417/>）は興味深いですが、それによると、当日 67 羽が数えられた由。遠くカムチャッカ半島からよく来たものです。冬期湛水水田（ふゆみずたんぼ）だそうで、オオヒシクイは水浴びして、畦に上がっては全身を見せて羽繕いしたりしていました。稲敷市の資料によれば、二番穂の確保や休耕田を増やさないと、ヒシクイ招来のため様々な検討や工夫が為されているようです。高圧電線など障害物が無く見通しがいい干拓地は、オオヒシクイにとって居心地いいように、我々にとっても猛禽類などを見るのに格好の場所であり、ヒバリが上がり、カワラヒワの群れが飛び回る上空にチ

ョウゲンボウが停止する、広大な空間を共有することができました。

風は冷たく日陰は寒かったです。予報と異なり天候には恵まれ、楽しく一日を過ごすことができ幸いでした。幹事の諏訪さん、桑森さん、お疲れ様でした。間野さんには車に同乗させて頂き、朝から夕方までありがとうございました。

#### 【幹事報告】

< 認めた鳥 > カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオヒシクイ、コブハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、タゲリ、クサシギ、キジバト、カウセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 50 種 番外 カワラバト

< 参加者 > 山本貞江、間野吉幸、古賀嗣朗、和田朋之、渡邊成、石渡成紀、猪爪敏夫、松本勝英、松本葉子、北原建郎、松田幸保、小玉文夫、古出洋子、鈴木静治、小川克子、肥後邦彦、畠中暁美、川越久枝、浅野利幸、宮下三禮、染谷迪夫、柴本三弘、柴本法子、佐々木隆（担当幹事）諏訪哲夫、桑森亮  
参加者 26 名

## ジャパンバードフェスティバルに参加しました

ジャパンバードフェスティバル 2009 が、11 月 7 日（土）8 日（日）の 2 日にわたって、親水広場鳥の博物館駐車場（鳥博広場）など計 8 会場で開催されました。出展団体数 100 団体以上であった。開催中の 2 日間、好天に恵まれ、JBF 実行員会公式発表によると 38,000 人も多くの人が訪れました。我が会も実行委員会の一員として下記のイベントに参加いたしました。当会ブースを訪れた人は 2 日間で 1,321 人（1 日目 450 人、2 日目 871 人）でした。定点バードウォッチングや船上バードウォッチングの参加者を加えると 2,200 人以上が参加しました。参加したイベントの状況を報告いたします。

なお、11 月 6 日（金）ブース設営、11 月 7 日（土）8 日（日）のイベント等、述べ 100 人の会員が参加されました。お手伝い頂いた会員の皆さんにお礼申し上げます。

1 「庭に鳥を呼ぶ」 - ブース -

鳥の好む木の実や草の実の実物標本を陳列しました。ブースを訪れた人は種類が多く感心していました。陳列した木の実、草の実は次の通り（合計 74 種）。陳列の方法は今年水を含んだスチロール製のブロックに標本を差し込む方法をとりました。水が常に標本に供給され開催中は枯れないで新鮮さを保っていました。一部は生け花風にしたので参加者によろこばれました。

木の実：

アオキ、アオツツラフジ、アカマツ、アラカシ、イイギリ、イチイ、イヌツゲ、イボタノキ、エゴノキ、エノキ、カエデ、カキ、カマツカ、ガマズミ、キツタ、クサギ、クスノキ、コブシ、コムラサキ、ゴンズイ、サルトリイバラ、サワラ、サンゴジュ、シラカシ、シロダモ、シロヤマブキ、シャリンバイ、スギ、スタジイ、スズカケノキ、センリョウ、ツタ、ツルウメモドキ、トウネズミモチ、トベラ、ナツメ、ナンテン、ヌルデ、ネズミモチ、ノイバラ、ハギ、ハナミズキ、ヒサカキ、ピラカンサ、マサキ、マテバシイ、マユミ、マンリョウ、ミカン、ムクノキ、ムラサキシキブ、モチノキ、ヤツデ、ヤブコウジ、ヤマボウシ、ユズリハ

草の実：

アメリカセンダングサ、イシミカワ、イネ、イノコズチ、イヌタデ、イヌビユ、イヌホオズキ、エノコログサ、オヒシバ、ガマ、カラスウリ、クス、セイバンモロコシ、セイタカアワダチソウ

その他、バードケーキの作り方、エサ台の製作図などのパンフレットを配布しました。

2 「パネル展示」 - ブース -

我孫子で見られる鳥の四季別の鳥の種類、食べ物の種類別の鳥の採餌写真を 9 枚の大形のパネルで展示し好評でした。

3 「紙芝居 = スズメさんの自然観察の上演」 - ブース -

スズメが我孫子を離れて山の方へ自然観察に行き、我孫子と他の地域の違いや環境の変化や大切さを体験するお話です。2 日間にわたって述べ 30 回位上演、観客 200 人以上でした。紙芝居の作者は首藤佑吉氏(当会会員)、作画は森元夏木氏(鳥博友の会会員)

4 「野鳥クイズ」 - ブース -

ブースを訪れた人や紙芝居を見た人達に 10 問 100 点満点の野鳥クイズをしてもらいました。満点賞として会員手作りの鳥のミニチアを贈呈しました。紙芝居を見た人は満点が多かった。クイズ回答者には全員に鳥の写真カードとアメを景品として出しました。今回は 2 日間で 171 人の方がクイズに参加しました。

5 「定点バードウォッチング」 - 水の館 噴水前

噴水前の広場での定点バードウォッチングです。定点で手賀沼の鳥をどのくらい観察できるか、参加者が実際に、望遠鏡や双眼鏡で観察しました。

参加者：750 人（1 日目 250 人、2 日目 500 人）

観察された鳥：

オオバン、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、コゲラ、コサギ、コブハクチョウ、シジュウカラ、スズメ、ハクセキレイ、ダイサギ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ムクドリ、モズ、ユリカモメ、バン、カワセミ、アオサギ、ウグイス、ミサゴ、(バリケン、アヒル、カワラバト) など 35 種

6 「船上バードウォッチング」

遊覧船を使って手賀沼を周遊する探鳥会、一周の所要時間は約 1 時間。毎回希望者が多く、今回も実施した回数 5 回は全て満員でした。乗船者には当会発行の(乗船記念野鳥写真カード 8 種類)を配布し好評でした。

参加状況：乗船人員 220 名



観察された鳥(2日間)

カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、ミサゴ、チュウヒ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、(バリケン) 28種

鳥 だ よ り

- 09.21 [江蔵地] ヒ(2) 葦原上空を飛ばす  
鈴木静治
- 09.21 [江蔵地] ヲウゲンヅ(1) 田より飛び立つ  
鈴木静治
- 09.22 [柏の葉柏の葉公園] コサキ(2) 10:20~11:20、桜の広場の隣の桜の木を移動  
飯泉仁
- 09.22 [布佐平和台] オカ(1) 杉の木の頂上に留る  
鈴木静治
- 09.23 [光ヶ丘広池学園] イヅ(4) 8:40、桜の木の枝に止まり、虫を捕食  
飯泉仁
- 09.23 [光ヶ丘広池学園] ツツ(1) 10:13、桜の木の天辺にとまる  
飯泉仁・久美子
- 09.23 [光ヶ丘広池学園] ヲ(2) 10:27、上空を旋回し、小金原方向に移動  
飯泉仁・久美子
- 09.23 [光ヶ丘広池学園] ヒ(1) 11:20、桜の木に止まって虫を捕食  
飯泉仁
- 09.23 [下沼田] イヅ(1) 水面上を飛ばす  
鈴木静治
- 09.24 [千間橋] ヲウゲンヅ(1) 上空より餌を採りに田に降下  
鈴木静治
- 09.24 [千間橋] ヒ(2) 鳴きながら輪を描いて飛ばす  
鈴木静治
- 09.24 [布施あけぼの山公園] ヒ(1) 斜面林で  
中野久夫
- 09.24 [弁天下] ノ(1) 電柱上  
中野久夫
- 09.26 [北新田] ヒ(3) 落とし堀土手で  
中野久夫
- 09.28 [江蔵地ゆうゆう公園] ミサゴ(1) 12:14、上空を旋回  
飯泉仁・久美子
- 09.28 [江蔵地ゆうゆう公園] ヒ(2) 12:23、草原を移動  
飯泉仁・久美子
- 09.28 [酒井根下田の森] ヲ(1) 9:54、ガラスに追尾されながら出現  
飯泉仁
- 09.28 [北新田] ノ(1) 飛翔  
中野久夫
- 09.29 [布佐平和台] ヒ(1) 鳴きながら木の上を飛ばす  
鈴木静治
- 09.29 [北新田] ヒ(1) 西へ飛翔  
中野久夫
- 09.29 [北新田] オカ(1) 排水栓から飛立ち  
中野久夫
- 10.01 [小堀] ヒ(1) 上空高く輪を描き飛び去る  
鈴木静治
- 10.01 [中峠] ヒ(5) セイカワフチの花穂にとまる  
鈴木静治
- 10.01 [中峠] ヲウゲンヅ(1) 上空を低飛しながら飛ばす  
鈴木静治
- 10.01 [北新田] ヲウゲンヅ(2) 電柱から飛去  
中野久夫
- 10.03 [下沼田] ハブサ(1) 高压塔頂上で羽づくろい  
鈴木静治
- 10.04 [柏の葉柏の葉公園] ヲカ(1) 11:53、ポート池で休んでいた  
飯泉仁・久美子
- 10.08 [布佐平和台] ヲウゲンヅ(2) 林・畑上を飛ばす  
鈴木静治
- 10.11 [染井入新田] イヅ(1) 15:20、農業水路の土手で休憩  
飯泉仁・久美子
- 10.11 [箕輪新田先手賀沼] ヒドリガ(4) 15:42、水面を泳いで移動  
飯泉仁・久美子
- 10.11 [箕輪新田先手賀沼] ヒ(1) 15:42、上空を旋回  
飯泉仁・久美子
- 10.11 [箕輪新田先手賀沼] ミサゴ(1) 15:42、上空を旋回  
飯泉仁・久美子
- 10.11 [高野山新田] イヅ(1) 人工干潟で採餌  
鈴木静治
- 10.11 [高野山新田] セイカワフチ(1) 人工干潟で採餌  
鈴木静治

- 10.12 [下沼田] 冢ヶ 氷 ㊦(1) 電柱上、電線にとまる 鈴木静治
- 10.13 [東中新宿] ショウ 氷 ㊦(1) 7:08、住宅街のテレビアンテナに止まり、カッカッと鳴いていた 飯泉仁
- 10.13 [我孫子新田地先] 村が ㊦(42) 漁業組合前  
染谷迪夫・木村稔・北原建郎・田中功
- 10.13 [手賀沼] マが ㊦(3) 上沼 3  
染谷迪夫・木村稔・北原建郎・田中功
- 10.13 [手賀沼辺] クハ(1) 上沼 1  
染谷迪夫・木村稔・北原建郎・田中功
- 10.17 [呼塚新田北柏ふるさと公園] イツギ(1) 15:59~16:20、公園内で観察  
飯泉仁・久美子
- 10.21 [東我孫子 1 丁目] 材刈(1) 死体拾得 幼鳥 首藤佑吉
- 10.27 [天王台 3 丁目] センダ ㊦(1) TV アンテナで鳴く 首藤佑吉
- 11.05 [東中新宿] ツギミ(1) 6:55、北北東方向を鳴きながら通過 飯泉久美子
- 11.06 [北新田] イツヅ(1) 4号排水路で 中野久夫
- 11.07 [北新田] 材刈(1) 休耕田で 中野久夫
- 11.07 [北新田] ㊦(3) 4号排水路で 中野久夫
- 11.15 [岡発戸新田] オゾ ヲリ(1) 葦に留る 猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男・鈴木静治
- 11.15 [岡発戸新田] 冢ヶ(1) ヒト ㊦ 上空を通過 猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男・鈴木静治
- 11.15 [岡発戸新田] 冢ヶ 氷 ㊦(1) 傾斜林より沼側に停飛しながら飛ぶ 猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男・鈴木静治
- 11.15 [岡発戸新田] ヒ(2) 上空を輪を描いて飛ぶ 猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男・鈴木静治
- 11.15 [手賀沼] ヒト ㊦(14) 上沼 7、下沼 7 染谷迪夫・佐々木隆・北原建郎・田中功
- 11.20 [久寺家] ㊦(1) 排水路で 中野久夫

### 今回寄せられた鳥の全種名

アオアシシギ、アオサギ、アオジ、アマツバメ、イソシギ、ウグイス、ウミネコ、エゾビタキ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオバン、オオルリ、オカヨシガモ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カケス、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キセキレイ、キビタキ、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、コアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、コブハクチョウ、サシバ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、スズメ、セイタカシギ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、センダイムシクイ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウサギ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツツドリ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ノビタキ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ホオアカ、ホオジロ、マガモ、ミサゴ、ムクドリ、ムナグロ、メジロ、モズ、ユリカモメ、ヨシガモ 計 81 種

### 番外種

アイガモ、アヒル、エジプトガン、カワラバト、コジュケイ、シナガチョウ、バリケン

### 今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	4
飯泉仁	182
飯泉仁・久美子	133
猪爪敏夫・谷山晴男・鈴木静治	2
猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男・鈴木静治	5
首藤佑吉	5
鈴木静治	52
諏訪哲夫	1
染谷迪夫・佐々木隆・北原建郎・田中功	32
染谷迪夫・木村稔・北原建郎・田中功	32
田中功	1
中野久夫	57
間野吉幸	5

### 総計

511

(諏訪哲夫)

## 会 員 便 り ( ab-yacho より )

### 【北新田】

- ・ムナグロは稲刈り後の耕田にいました。
- ・タヒバリは 10 月 11 日からきています。(中野久夫 09/10/15)
  
- ・オオタカは越流堤横の柳にいました。
- ・タゲリは 6 号線下の耕田にいました。今までの最多は 11 月 9 日の 40 羽です。
- ・ツグミは 10 月 9 日からみられるようになりました
- ・ホオアカは 3 号排水路近くの休耕田にいました。3 年前から、毎冬同じ場所で見られるようになりました。(中野久夫 2009.11.16)

### 【落鳥】

10 月 21 日、東我孫子の近隣センター「こもれび」でスタッフさんが落鳥を拾いました。通報を受けた私は早速これを山階鳥研に届けました。平岡さん、小林さんが遺体を調べた結果、オオルリのメス、幼鳥と判定されました。東我孫子でオオルリとは予想もしていませんでした。渡りの途中で迷ったのでしょうか。(首藤佑吉 2009.10.22)

昔、北新田の農道でノゴマの雄を拾ったことがあります。うつぶせに倒れていたの、何気なく拾ったところ喉の赤が眼に入り驚いたことがあります。喉の赤は赤い下に白があり、車の塗装と同じなんだなー、と思ったことが未だに記憶に新鮮です。思いがけないことが落鳥にあります。(西巻実 2009.10.22)

### 【手賀沼】

11 日の定例探鳥会では確認できなかったセイタカシギが出ていると聞いて今日見に行ってきました。場所は今までと同じ市民農園前の人口干潟です。今日は 3 羽確認できました。3 羽とも寛いだ様子でした。その足で手賀の丘公園に回ってみました。常連のルリビタキやジョウビタキはまだ来ていないようでした。ジャブジャブ池も静かでした。

(諏訪哲夫 2009.10.22)

定例探鳥会時、ひどり橋付近でチュウヒを見かけることがあります。一昨日、水面でホバリングして魚を捕獲した情景を目撃しましたので報告します。魚が生きていたかどうかは不明です。(松田幸保 2009.11.02)

今日、午前中手賀沼(下沼)でコアジサシを一羽観察しました。滝下広場先の橋の上から手賀沼の生簀の網の傍でユリカモメ、セグロカモメに混じってコアジサシが一羽混じっていた。コアジサシについて、我孫子野鳥を守る会の鳥便りの記録を調べてみたが、10 月までで 11 月の記録はありませんでした。会員の皆さんの記録でコアジサシを手賀沼周辺で見た遅い記録がありましたら教えて下さい。(間野吉幸 2009.11.12)

昨日の定例手賀沼探鳥会は好天に恵まれ、鳥達も沢山出て大層盛り上がった楽しい探鳥会でした。特にミサゴ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウなど猛禽類が姿を見せてみなさん喜んでいました。期待していたタゲリもお立ち台の田圃に群れていてゆっくり観測できました。鳥合せでは 41 種を数え、手賀沼が絶好の探鳥シーズンに入ったことを感じました。普段定例探鳥会にあまり来られない会員の方々も是非多くの冬鳥に出会える定例手賀沼探鳥会に参加されることをおすすめします。(諏訪哲夫 2009.11.16)

下沼の染井入落としてタゲリが3羽水浴びをしていました。ミコアイサ が2羽いましたが、 は確認できませんでした。先週の定例会でハイロチュウヒを観察とされましたが、同じ個体と思われるチュウヒが飛翔していました。下面が白っぽく、上面の雨覆いが灰褐色で、上尾筒（腰）の白さが目立ちました。ハイロチュウヒかチュウヒ（大陸型？）か良く識別できませんが、鳥便りではチュウヒとしました。2週間ほど前にもこの個体を見ており、3度目になります。次の機会には今度こそ識別に挑戦したいと思います。

（桑森亮 2009.11.23）

10日の夜明け頃、手賀沼の蓮田より百羽余のシギが飛び立ち手賀大橋方面に飛び、旋回しながら見えなくなりました。私はこんなに多くのシギの編隊を手賀沼で見たのは初めての経験でした。ちょっとした興奮状態でした。どんなシギが気になっていた所、11時半頃数十羽のシギが蓮田に戻って来ました。上手く枯れた蓮に同化してしまい見つけるのに時間を要しましたが、タシギであることが判りました。展望台より十時（北西）の方向150m位の所におりました。12月の定例探鳥会の時にでも見られるといいですね。

（間野吉幸 2009.12.11）

興味深い観察のご報告ありがとうございます。タシギの100羽の群れというのはすごいですね。11時半頃戻ってきたということは日中も蓮田をよく見ればかなりの数がいることはあるのかもしれないね。時間があったらちょっと見に行ってみたくくなりました。夜明けはつらいですが・・・（平岡考 2009.12.11）

#### 【手賀沼のミサゴ】

今、手賀沼上沼にいるミサゴは食事時間が遅く、10時～11時ごろに魚を捕ります。遊覧船にはあまり警戒しないようなので、船上バードウォッチングは期待できそうです、乞うご期待！（松田幸保 2009.11.05）

ミサゴの今日の食事時間は、いつもより1時間早い9時20分でした。人影の見える漁の船が近づいたら、魚を持って別の杭に移動しました。けっこう大きい魚を捕るので、明日は楽しめるのでは！（松田幸保 2009.11.07）

手賀沼上沼のミサゴのダイビングを撮るべく、朝からひどり橋近くで座り込んでいました。期待どうり何回か上空を旋回してくれましたが、水浴びや脚洗いをするだけで、とうとうダイビングをすることなく夕方になってしまい引き上げました。私も想定外の餌（昼食）抜きになってしまいました、とほほ！（松田幸保 2009.11.10）

JBFの船上バードウォッチングでも、松田さんに教えていただいた情報を元に、客にも伝え、しっかりとミサゴを探そう、お願いしておきました。上沼・下沼含め、毎航海ごと、サービスよろしく現れてはくれたのですが、期待の近距離での餌取りスカイダイブは、遂に見ることが出来ませんでした。

下沼では、一回だけ、それらしき飛翔を見せ、かなりしつこく獲物を探していたかに見えましたが、とうとうダイブせず。なんとなく、中途半端な降下の仕方ばかり、おなかが空いていない？ のか。ハクレンとか大型魚を射止めて満腹状態なのか、或いは、それこそどこかに貯食して、『格別の味わいがあると伝えられる発酵“ミサゴ寿司”！』の方に興味が行っているのか？？ カメラマンとしては、困り者のミサゴのように感じます。何かウマイ撮影方法がないものでしょうか？（田中功 2009.11.12）

今日の手賀沼は波立って魚を探しにくいだらうなと思いながら、ひどり橋付近に陣取ってしまいました。北柏ふるさと公園も含めた上空を旋回し、我孫子側で3回水しぶきをあげましたが不発でした。そのうち豆粒に見えるぐらいの高空に上がってしまったので、あきらめて帰りました。午後、いつもの杭に止まっているのをふれあい道路から見ましたが、帰りにはいませんでした。餌にありつけたのかな？（松田幸保 2009.11.12）

今日の手賀沼下沼のミサゴは、一時大津川上流に行くなどして苦労していましたが、11時前に小ぶりながらゲットしました。私は、ゲットできませんでした！

（松田幸保 2009.11.13）

このごろ入れ込んでいる手賀沼上沼のミサゴに、雨が止んだと同時に出かけました。苦労して捕らえた魚を杭に運んだのですが、さっぱり食べる様子がありません。よく見ると、左脚一本で魚の後部をつかんでいるために、魚の頭が下がった状態になり嘴が届きません。魚をぶら下げて杭の周りを飛んで、また杭に戻る動作を2・3回繰り返しましたが、状況は変わりませんでした。最終的には頭近くをつかんで、食事に成功しました。どのようにして、頭近くをつかんだのでしょうか？（松田幸保 2009.11.18）

#### 【古戸】

一昨日裏の田圃（古戸）を散歩した時に電線でカッカッとやっているジョウビタキ（ ）を見ました。また近くの水路にはキセキレイも出ていました。散歩していても変化が無かった古戸の田圃も少しずつ賑わい始めたようです。（諏訪哲夫 2009.10.30）

昨日散歩していたらすぐ裏の田圃の水路にゴイサギの若鳥がいました。以前降雪の後同じ場所ではやはりゴイサギの若鳥を見たことがありましたが今回はその時とは状況が違うので一寸びっくりしました。あのホシゴイ君の縄張りに今年は餌が不足していて人家の近くまで出張ってきたのかなと思ったりしています。（諏訪哲夫 2009.12.07）

#### 【我が家の庭】

秋が深まるにつれて我が家で見かける鳥達の種類が多くなってきました。昨日から今日にかけてはエナガ、カワラヒワ、コゲラ、シジュウカラ、スズメ、シメ、ジョウビタキ、ヒヨドリ、モズ、メジロ等を見聞きしました。隣家に桜の木があり、ここに鳥達が集まってきました。シメは鳴き声だけでしたが近くに来ているようなので我が家の餌場にもその内に姿を見せるのではと期待しています。（諏訪哲夫 2009.11.02）

今年も我が家の餌場にシメがやってきました。数日前から鳴き声は聞こえていましたが餌場に降りてきたのは今日が初めてです。今年で8シーズン目になります。シメが餌場に姿をみせるようになって本格的な冬になったなと感じる今日この頃です。

（諏訪哲夫 2009.11.03）

#### 「ab-yacho」グループへ参加の案内

当会のメールグループ「ab-yacho」では上記のような鳥情報、会員同士の意見交換、会からの連絡など連日ホットなニュースが掲載されます。まだ加入されていない方は参加ください。

参加方法：お名前、E-mail アドレス、住所を

管理者 佐々木隆 [takasasaki@jcom.home.ne.jp](mailto:takasasaki@jcom.home.ne.jp) までご連絡ください

## 手賀沼周辺で観察されたタカ目（鳥だよりの記録より）(続)

間野 吉幸

### 4.9 ハイロチュウヒ（タカ科）

ハイロチュウヒは10年で88件の観察を記録した。観察件数としては余り多くない。2004年以降の観察件数が少なくなっている。ハイロチュウヒは葦原、草原、農耕地の草地、湿地などを好む鳥で、秋の中頃から春の中頃まで、沼や河川周辺で見られた。ネズミ類の他に鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類などを採食する。観察年数：10/10年。

### 4.10 ハイタカ（タカ科）

ハイタカは千葉県レッドデータブックの重要保護生物に指定されている。10年で7件と観察件数は少ない。冬鳥として手賀沼上空やその周辺、利根川付近で観察された。ハイタカは鳥類を主に獲り、ネズミなども食す。

観察年数は4/10年。

### 4.11 ミサゴ（タカ科）

ミサゴは、千葉県レッドデータブックで、重要保護生物になっている。10年で205件の観察を記録した。このタカは魚食性で、手賀沼や利根川付近で観察された。手賀沼では、杭の上で魚を足で捕まえている姿がよく観察されている。

以前は9月から11月に掛けて秋によく観察されていたが、冬季の増加に加え、最近夏は夏の観察記録も増えて来ている。観察年数は10/10年。

### 4.12 コチョウゲンボウ（ハヤブサ科）

コチョウゲンボウは10年間の観察件数は11件のみ。手賀沼周辺では、北新田、中沼田、下沼田など田圃で冬鳥として少数観察された。主に小鳥やネズミを獲り、カエルなども獲る。観察年数は5/10年。

### 4.13 チゴハヤブサ（ハヤブサ科）

チゴハヤブサは10年間の観察件数は5件のみ。手賀沼周辺では、北新田、千間橋付近で冬鳥として少数観察された。主に小鳥を獲り、昆虫なども食す。

観察年数は3/10年。

### 4.14 チョウゲンボウ（ハヤブサ科）

小形のハヤブサの仲間であるチョウゲンボウは、千葉県のレッドデータブックでは、要保護生物に指定されている。10年間で最も多くの641件の観察を記録した。チョウゲンボウは手賀沼周辺に幅広く生息し繁殖している。地上の昆虫やネズミなどを獲り、小鳥をも襲う。一年を通して観察されている。

観察年数は10/10年。

### 4.15 ハヤブサ（ハヤブサ科）

ハヤブサは、千葉県のレッドデータブックでは、重要保護生物に指定されている。10年間で164件の観察を記録した。ハヤブサは主に冬鳥としての観察記録が多いが、夏季にも観察されている。北新田や手賀沼に近接した田圃でよく観察される。朝夕活発に活動し鳥類を獲る。観察年数は10/10年。

## 5. 観察された千葉県レッドデータブックのタカ目

千葉県レッドデータブックに掲載されているタカ目は、13種ある。10年間でオジロワシとハチクマを除く11種（オオタカ、オオワシ、サシバ、チュウヒ、ツミ、トビ、ノスリ、ハイタカ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ハヤブサ）が手賀沼周辺で観察された。その内9種は観察頻度が高かった。また環境省カテゴリーでは、オオタカ、オオワシ、チュウヒ、ハイタカ、ミサゴ、ハヤブサの6種が観察された。実に多くの種類が観察された。是非このタカが住める環境が維持されることを希望する。

1998年～2007年間のタカ目種別月別観察年数

科	種	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年	件数	
タカ	オオタカ	98-02年	4	5	5	2	4	3	4	2	3	3	4	5	5	138	
		03-07年	5	5	5	5	5	4	4	4	5	5	5	5	5	306	
		98-07年計	9	10	10	7	9	7	8	6	8	8	9	10	10	444	
	オオワシ	98-02年	1													1	2
		03-07年															
		98-07年計	1													1	2
	ケアシノスリ	98-02年															1
		03-07年	1														
		98-07年計	1													1	1
	サシハ	98-02年				5	5	5	4	4	5	2				5	190
		03-07年	1			5	5	5	5	3	5	3				5	298
		98-07年計	1			10	10	10	9	7	10	5				10	488
	チュウヒ	98-02年	5	5	4	2						5	4	5	5	5	88
		03-07年	5	5	4	2		1				3	5	5	5	5	81
		98-07年計	10	10	8	4		1				8	9	10	10	169	
	ツミ	98-02年			1	1	2	1	2			1	1			3	26
		03-07年	1		4	5	5	5	5	4	4	2	2	1	5	157	
		98-07年計	1		5	6	7	6	7	4	5	3	2	1	8	183	
	トビ	98-02年	4	1	1	1				1		2	1	2	4	5	25
		03-07年	4	3	3	3	4	3	3	1	4	4	5	5	5	5	164
98-07年計		8	4	4	4	4	3	4	1	6	5	7	9	10	189		
ノスリ	98-02年	5	4	4	1	1					1		4	5	5	103	
	03-07年	5	5	5	3	3	2	2	2	4	4	5	5	5	5	238	
	98-07年計	10	9	9	4	4	2	2	2	5	4	9	10	10	341		
ハイロチュウヒ	98-02年	3	3	3	2						3	3	4	5	5	58	
	03-07年	3	3	4	1							3	2	5	30		
	98-07年計	6	6	7	3						3	6	6	10	88		
ハイタカ	98-02年	1	1												1	2	
	03-07年	1		1	1									1	3	5	
	98-07年計	2	1	1	1									1	4	7	
ミサコ	98-02年	1		1	1					1		4	2	2	5	18	
	03-07年	5	5	3	4	1	1	2	2	3	5	5	5	5	5	187	
	98-07年計	6	5	4	5	1	1	2	3	3	3	7	7	10	205		
タカ科計	98-02年	24	19	19	15	12	9	11	7	12	19	19	25	40	651		
	03-07年	31	26	29	29	23	21	21	16	25	26	30	29	44	1,466		
	98-07年計	55	45	48	44	35	30	32	23	37	45	49	54	84	2,117		
ハヤブサ	コチョウゲンボウ	98-02年										1	1		2	2	
		03-07年			2								2	2	3	9	
		98-07年計			2								1	3	2	5	11
	チコハヤブサ	98-02年			1								1		1	2	4
		03-07年										1				1	1
		98-07年計			1							1				1	3
	チョウゲンボウ	98-02年	5	5	5	5	5	4	4	3	5	5	5	5	5	5	281
		03-07年	5	5	5	4	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	360
		98-07年計	10	10	10	9	10	9	8	7	10	10	10	10	10	10	641
	ハヤブサ	98-02年	3	2	2	2						2	3	5	5	5	64
		03-07年	4	5	2	5	2	1		1	4	3	4	4	4	5	100
		98-07年計	7	7	4	7	2	1		1	4	5	7	9	10	164	
ハヤブサ科計	98-02年	8	8	7	7	5	4	4	3	5	9	9	11	14	351		
	03-07年	9	12	7	9	7	6	4	5	10	8	11	11	14	470		
	98-07年計	17	20	14	16	12	10	8	8	15	17	20	22	28	821		
タカ目合計	98-02年	32	27	26	22	17	13	15	10	17	28	28	36	54	1,002		
	03-07年	40	38	36	38	30	27	25	21	35	34	41	40	58	1,936		
	98-07年計	72	65	62	60	47	40	40	31	52	62	69	76	112	2,938		

出典：我孫子野鳥を守る会「鳥便り」データベースより

参考資料

- ・ 我孫子野鳥を守る会 「鳥便り」データベース
- ・ 我孫子野鳥を守る会 手賀沼の鳥 (2004年11月)
- ・ 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥 (1998年9月)

**手賀沼クリーン作戦**

毎月定例探鳥会を実施している手賀沼の柏側エリア(柏市沼南地区下手賀沼 染井入落から東約1km)の清掃を行いました。

実施日：10月11日(日) 13:30～15:00

参加者：染谷迪夫、宮下三禮、古出洋子、古出夏妃、北原建郎、松本勝英、諏訪哲夫、佐々木隆、田中功、野口紀子、田中恒雄、石渡成紀、木村稔、桑森亮 計 14 名

当会の環境保全活動の一環として毎年行っていますゴミ拾いを約 1 時間半、当会が毎月、定例探鳥会としている柏市沼南側のフィールドの清掃を行いました。他のボランティア団体が清掃をしていると聞いてはおりましたので、一見きれいに見えましたが多少のゴミが見つかりました。目立ったゴミは、タバコの吸殻、ペットボトル、飲料水の空き缶などでした。収集したゴミの量は可燃物・不燃物合わせて 270L ゴミ袋で 6 袋でした。参加いただいた会員の皆さんご苦労様でした。

### 柏市立中原小学校 探鳥指導

日 時 10 月 29 日 (木) PM 1:15 ~ 3:15

場 所 手賀の丘少年自然の家周辺と手賀沼染井入落、お立ち台周辺

参加者 柏市立中原小 4 年生 50 名 先生方 6 名 計 56 名

探鳥指導内容

4 年生が手賀の丘少年自然の家に一泊する総合学習のカリキュラムの中で、野鳥観察を希望した生徒 50 名と先生 6 人を、隣接する手賀の丘公園と手賀沼で野鳥観察の指導をしました。手賀の丘公園では冬の季節に見られる山の鳥、手賀沼では冬の水鳥を観察。身近にいろいろな鳥を観察して、生徒はかなりの興味を示し、感激し驚きもあったようでした。2 時間強の観察でしたが子ども達も先生方も楽しそうでした。後日、生徒の皆さんより感想文が届きました。

### 11 月幹事会報告

日時 11 月 15 日(日) 13:30 ~ 16:30

場所 水の館 3 F 研修室

- 議題
1. 芋煮会の実施と作業分担：去年と同じように奉行制で実施
  2. 会報 212 号記載記事について：記載記事は原案通り了承され、担当者も決定。
  3. 会計（第 2 四半期）報告：会計担当の北原幹事が説明、了承された。
  4. 報告事項

JBF 実施概略報告：事務局と各担当者より報告。今回の入場者数は、JBF 運営委員会の公式発表では、38,000 人の入場者。当会で全企画（ブース、定点及び船上バードウォッチング）の参加者は 2,200 人

手賀沼と冬鳥、舟とウォーキングによるモニタリングツアーについて

1 月 12 日開催予定で当会に案内依頼、70~80 人の予定で対応に 10 人くらい必要だが受ける方向で決定

10 月 29 日 (木) 中原小学校児童の探鳥指導実施

### ほーほーどり No. 212 (2010 年 1 ~ 2 月号)

発行 2010 年 1 月 1 日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1 - 9 - 4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円 (大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)